

魅力ある地域づくり交流会、時間が足りないほどの盛り上がりでした

6月27日金曜日、郡上市との共催で行った魅力ある地域づくり交流会。時折激しく降る雨の夜でしたが、市内全域から80名余りの参加者がありました。今年は、各地域で精力的に活動している市民団体からの参加者が多く、地域づくりへの熱意が強く感じられる場となりました。交流会の様子をダイジェストでお伝えします。



まずは、協働による地域づくりを進めている団体の「地域を照らすとっておき活動」の発表です。

和良蛩を守る会

和良蛩は非常に多くの発生が見られるが、幼虫やその餌となるカワナなどの放流もしていない、全くの自然の産物である。しかし、幻想的な光景に魅せられて非常に多くの方が訪れるようになったため、観察地周辺の違法駐車やマナーの悪さが目立つようになった。そこで、観察の案内やマナーに関する啓発が必要と考え、和良おこし協議会を中心に活動を始め、その後和良蛩を守る会が発足した。蛩が発生する6月は毎日現地案内所を開設し、会員を中心に、地域団体や住民、公民館ジュニアサポーターの子どもたちの協力も得て活動している。現地案内所では、蛩や観察地の案内、和良町の魅力などを話し、観察に訪れる人たちとの交流も楽しんでいる。和良蛩を守る会では、毎日発生状況を観察し、和良観光協会のサイトで公開してきた。調査や記録を続けることはこれからの活動にも、変わりゆく環境を知るためにも必要なことと考えている。



(水野英俊代表)



小川ふるさと活性化組合

小川地区は山に囲まれて孤立した場所に存在しているため、地区全体が団結することを大切にしてきた。平成元年に21会が、その3年後に区若会が結成され、道路周辺の環境整備、花木の植栽・管理、花壇づくり、草刈り、盆踊り大会等のイベント運営、といった活動を行ってきた。しかし、任意団体では活動に限界があることや自治会役員の任期が1年であることの弊害などから、平成11年7月、小川ふるさとづくり委員会が設置された。この委員会が中心となって、2000年に住民総出で、2000本の花桃の苗を植えた。その後も育成・管理を行いながら植栽を続け、花桃の咲く地域づくりを進めている。平成15年には小川活性化組合を立ち上げ、小川きの里をオープンすることができた。

2、3年後には（仮称）めいほうトンネルが開通し観光客が増加することを信じて、今後も活動を続けていきたい。（山口忠次組合長）



※当日は、小川峠が雨量規制で通行止めになったため、用意された原稿を事務局が代読しました。

ワールドカフェ風交流会 後半は、6人グループでひざを突き合わせ、地域づくりについて熱く語り合いました。さまざまな意見が飛び交い、一気に会場のボルテージが上がりました。

リーダー的な人の顔ぶれが変わらず、次世代の人材が見えてこない。引っ張ったりまとめたりする人も少ない。結びつきが濃い地域はより濃くなっていくし、薄い所はそのままギャップが広がってしまう傾向がある。→市民全員が地域の現状について自分のこととして考えるために、会合等でとことん話し合うようにする。また、いろんな年代・カテゴリーのリーダー候補を育てる支援が必要である。

郡上に残る、帰ってくる意識が高い若者が増えているが、活躍の場が少なかったり地域になじみにくかったりする状況がある。→地域で活躍する場を増やして成功例を作ることで関係ができ、地域力が上がる。また、中・高校生のうちから郡上について考え、地域づくりに関わることが大切で、それこそが人づくりの原点になる。



遊休農地活用で田んぼオーナーの取り組みを始めたが、なかなか思うようにはいかない。→地域によって課題は違うので、状況に合わせた方策を考えることが大切。地域づくりは無理なく楽しく参加できることが長続きのコツである。

地域づくりは地域全体でやっていくものなのに、住民間での意見交換ができていない。→行政や市民協働センターが、各年代の住民を集めて交流する機会を作るなどのサポートができるとよい。

中学生・高校生も地域づくりに関心があります、行動したいんです!!

地域づくりには、大人だけでなく、子どもたちの力も欠かせません。文部科学省が推し進めている地域学校協働活動に先駆けるように、各地で地域づくりに積極的に参加する中学生や高校生の姿があります。ここでは、お隣の高山市で地域の未来を考え行動する高校生の姿と、Good郡上プロジェクトの進行状況を報告します。

「ひだ！高校生会議」を実現した高校生

高校生自身が発案し、企画・運営する「ひだ！高校生会議」は昨年の8月11日土曜日に第1回が開催され、飛騨地域の各高校から24人が参加しました。そして、今年の3月16日土曜日には40人近くの高校生が集まって、2回目の会議が開催されたのです。

この会議を主催したのは斐太高校3年生(当時)の鈴木日菜子(すずきひなこ)さん。『「まちづくり」とは何かを考えたとき、大切なのは「もの」ではなくて「ひと」だと思います。』と語る彼女は、高校1年生の2016年8月に、飛騨の中学生による飛騨の中学生のためのフリーペーパーを発行する「HIDAKKO PROJECT」を立ち上げ、飛騨高山の魅力を発信し続けました。そして、昨年、いろんな枠を超えて、地域の未来を熱く語り合える場を作りたいと考え、「ひだ！高校生会議」を主催したのです。



この「ひだ！高校生会議」では、高校や地域の枠を超えて、「飛騨の良さ」「飛騨の問題」「飛騨にほしいもの」等のテーマについて語り合いました。さらに、自分たちで企画・運営するイベントや事業も発表しました。飛騨のまちづくりのために「何ができるか」「何をすべきか」について、参加者全員が真剣に考えたのです。この活動には市役所も賛同し、さまざまな協力を行っています。これは、「高校生もまちづくりに参加する」というこれまでの考え方ではなく、もっと進んだ「高校生の団体が、まちづくりの主体の一つになる」ことをめざした取り組みです。高山市は、「若い力が、これからの飛騨を、そして、日本を支え、大きく世界に羽ばたいてくれることを期待しています。」と言っていますが、「飛騨」を「郡上」に置き換えてみれば、願いは同じです。そして、私たちは、郡上にも、高山の高校生と同じ意識と行動力をもった若い世代がいることを信じています。



市内中学校・高校でのGood郡上プロジェクトの取り組み

Good郡上プロジェクトは、中学生・高校生から地域づくりのアイデアを募集する市民協働センターの事業です。11月に開催するまちづくりフェスティバルで、優秀提案の表彰と提案者によるプレゼンテーションが行われます。

今年は6月初めから、中学校や高校で、Good郡上プロジェクト応募に向けた授業が盛んに行われています。市民協働センターは学校への支援活動として、授業のコーディネートを行ってきました。

①郡上市の現状と課題を知り、問題意識をもつ授業

八幡中学校(6月6日木曜日)
白鳥中学校(6月11日火曜日)
大和中学校(6月27日木曜日)
八幡西中学校(7月2日火曜日)
高鷲中学校(7月12日金曜日)

講師2名による支援

②中学校でのGood郡上プロジェクトへの取り組みを踏まえ、より具体的な郡上市の現状と課題を理解し、問題意識を高める授業

郡上北高校(6月19日水曜日) — 講師2名による支援

③カテゴリー別に地域の現状や課題を理解し、テーマ設定につなげる授業

白鳥中学校(6月14日金曜日)
大和中学校(7月17日水曜日)
八幡西中学校(7月16日火曜日) — 講師3名による支援

講師5名による支援

④テーマや取り組み方に対する助言を受け、提案の構想を具体化する授業

八幡中学校(7月19日金曜日) — アドバイザー5名による支援



大和中学校(6月27日)の授業



白鳥中学校(6月14日)の授業

発行日/2019年8月1日

発行 **市民協働センター** 岐阜県郡上市大和町徳永585番地 郡上市役所大和庁舎1階
TEL:0575-88-2217 FAX:0575-88-2218 E-mail:kyodo-c@gujo-tv.ne.jp
<https://www.gujo-siminkyodo.org/> 月～金曜日 8:30～17:15(祝日・年末年始を除く)